

板橋区の蝶を調査する会報告No.183
活動グループ名：板橋区の蝶を調査する会

5月の定例観察会は、エコポリスセンターが環境観察員を対象に実施した「板橋の蝶観察会」（講師等は板橋区の蝶を調査する会の会員で実施）の内容を、板橋区の蝶を調査する会の定例観察会の報告としました。

観察日時：2026年5月23(土)

観察地域：板橋区立美術館周辺、都立赤塚公園赤塚城址周辺、板橋区立赤塚植物園及び万葉薬用園他

参加者：エコポリスセンターかんきょう観察員17名

指導者：「板橋区の蝶を調査する会」会員11名（神山、川口、児嶋、小林、坂本、塩田、庄司、神、長澤、山田、米沢）及びエコポリスセンター職員2名

当日の天気：曇り 16℃→20℃

実施概要

1 当日のスケジュール

- ① 午前8時30分 板橋区の蝶を調査する会の会員集合
- ② 午前8時20分受付開始（区立美術館前・トンボ池）ー受付事務（エコポリスセンター）
- ③ 午前8時45分 エコポリスセンター挨拶、蝶の会メンバー紹介、
班編成・リーダー確認、観察シート記入説明等
- ④ 観察開始
午前9時00分～午前11時10分（観察場所：班別に赤塚城址・赤塚植物園等を観察）
午前11時10分終了
- ⑤ まとめと挨拶 午前11時10分～午前11時30分
 - ・ 観察データ班ごとの集計・発表
 - ・ 終了挨拶

2 観察コース・時間（午前9時00分～午前11時10分）

赤塚城址⇄赤塚植物園（コース例）

区立美術館周辺⇒溜池公園・郷土資料館脇⇒新規開設公園⇒赤塚城址・バッタ広場及び周辺⇒城址梅林⇒赤塚植物園⇒万葉薬用園・農業園⇒区立美術館横。

3 班編成等

3班編成とし、各班の参加者約6名、蝶の会の指導者4名程度を配置した。蝶はネットで捕獲又は静止・飛翔（種の判別が可能であれば）している蝶について種等の確認をし、配布したA4「板橋区内で見られる蝶」の写真で説明し、参加者の理解を深めた。また、食草と幼虫についての話を交えて解説した。なお、捕獲し確認し終わった蝶については、順次リリースをした。

観察結果

（当日1～3班で確認した蝶（幼虫を含む））は全部で9～10種であった（アカボシゴマダラとゴマダラチョウの卵と幼虫については、29日の時点の観察で、幼虫はアカボシゴマダラと確定。卵は判別が不確かなため、両方に記載した）。

確認した蝶の科及び種は以下の通りである。

アゲハチョウ科

- ①アゲハ（卵と幼虫）
- ②ジャコウアゲハ（卵と幼虫）

シジミチョウ科

- ①ウラナシジミ
- ②ヤマトシジミ

シロチョウ科

- ①ツマキチョウ（幼虫）
- ②モンシロチョウ♂♀

タテハチョウ科

- ①アカボシゴマダラ（成虫・卵？・幼虫）
- ②ゴマダラチョウ（卵？）
- ③ヒメジャノメ

セセリチョウ科

- ①キマダラセセリ

観察概要

前日まで雨模様であり、当日の天候も曇りでやや気温が低い状況でした。また、先週に城址周辺の草刈りが行われ、蝶の観察には条件が悪い観察日となりました。

観察場所	確認した蝶の種類
区立美術館周辺	モンシロチョウ、アカボシゴマダラ幼虫、ヒメジャノメ
バッタ広場周辺	モンシロチョウ、アカボシゴマダラ春型、アカボシゴマダラかゴマダラチョウの卵、ヒメジャノメ、ウラナミシジミ、ヤマトシジミ、キマダラセセリ
梅林周辺	アゲハ卵、
新規公園	モンシロチョウ
赤塚植物園	アカボシゴマダラ
万葉薬用園	ジャコウアゲハ（卵・幼虫）、ツマキチョウ幼虫
農業園	アゲハ幼虫、モンシロチョウ
その他	ヒメジャノメ

2026年5月23日（土）観察写真



エコポリスセンター挨拶



観察行動の説明



美術館前アカボシゴマダラ幼虫



バッタ広場キマダラセセリ



バッタ広場ヒメジャノメ



バッタ広場アカボシゴマダラ卵



梅林周辺アゲハの卵



トンボ池モンシロチョウ♀



万葉薬用園ジャコウアゲハ幼虫



万葉薬用園ジャコウアゲハ卵



万葉薬用園ツマキチョウ幼虫



農業園アゲハ幼虫



農業園モンシロチョウ♂



29日まで継続観察した美術館前の幼虫



キマダラカミキリ



ハラグロオオテントウ



エコポリスセンター観察会終了挨拶